

2020 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎医学部医学科志願状況

□前期は6年連続減少、後期は2年ぶりに減少

〔志願者数推移〕

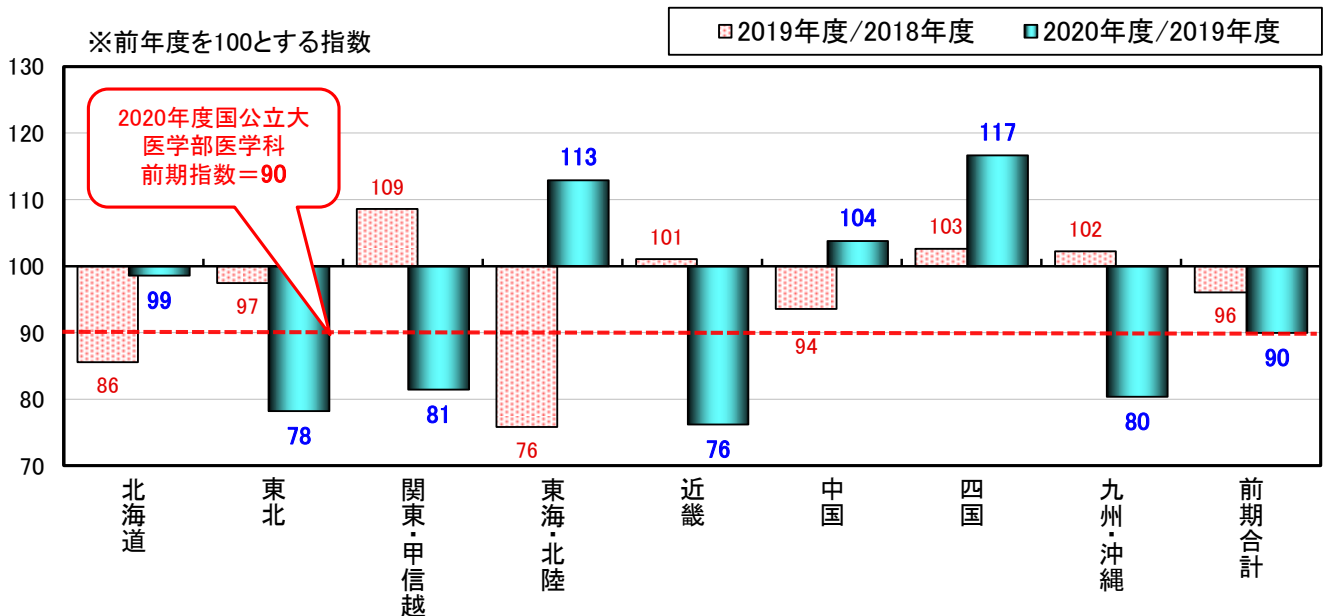
		2020年度	増減数	指数	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度
募集人員	前期	3,595	-49	99	3,644	3,676	3,699	3,683	3,653	3,614	3,592	3,591
	後期	454	-70	87	524	539	541	556	586	611	651	670
	合計	4,049	-119	97	4,168	4,215	4,240	4,239	4,239	4,225	4,243	4,261
志願者数	前期	14,741	-1,649	90	16,390	17,064	18,093	18,342	18,999	19,919	19,674	20,483
	後期	7,404	-1,677	82	9,081	8,969	9,927	10,073	11,047	12,586	12,813	14,103
	合計	22,145	-3,326	87	25,471	26,033	28,020	28,415	30,046	32,505	32,487	34,586
志願倍率	前期	4.10			4.50	4.64	4.89	4.99	5.20	5.51	5.48	5.70
	後期	16.31			17.33	16.64	18.35	18.12	18.85	20.60	19.68	21.05
	合計	5.47			6.11	6.18	6.61	6.70	7.09	7.69	7.66	8.12

医学部医学科(以下「医学科」)全体の志願者数は、後期募集廃止大学の増加、医学科入学定員増による既卒受験生の減少、好調な経済指標によって医学科以外の進路を考える理系成績上位層の増加、地域卒の増加による大都市部受験生の志望校選択幅の縮小などにより、3,326人(87)の減少で6年連続減少しました。日程別では、前期は1,649人(90)の減少で6年連続減少、後期は1,677人(82)の大幅減少で前年度の増加から再び減少しました。この大幅減少の要因は、広島大、鳥取大、福島県立医科大の後期募集廃止が大きく影響しました。この結果、志願倍率は前期が4.50倍→4.10倍と0.40ポイントダウン、後期は17.33倍→16.31倍と1.02ポイントダウンとなり、いずれも競争の緩和がはっきりしました。

□前期の地区別では東北、関東・甲信越、近畿、九州・沖縄の4地区が大幅減少

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



前期合計では1,649人(90)の減少でした。地区別では、四国(117)は大幅増加、東海・北陸(113)は増加となりました。一方で、近畿(76)、東北(78)、九州・沖縄(80)、関東・甲信越(81)が大幅減少となりました。
○北海道(99)：北海道大(119)が大幅増加、札幌医科大(106)はやや増加。一方で、旭川医科大(75)が大幅減少で2年連続減少。

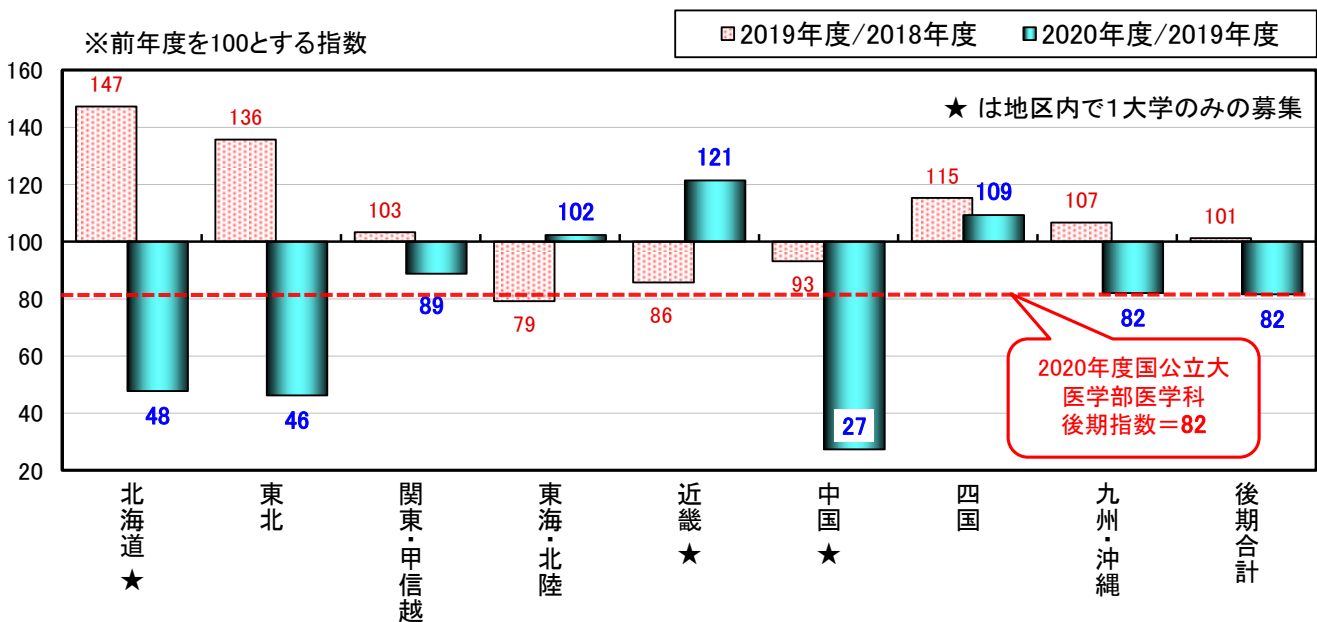
○東北(78)：秋田大(182)は第1段階選抜基準の緩和に加え、前年度大幅減少の反動で大幅増加。弘前大

2020 年度入試状況分析【国公立大】

(55)、福島県立医科大(59)が大幅減少。東北大(71)も大幅減少だが、募集人員が約 27%減少のため、競争緩和はなし。山形大(96)はやや減少で4年連続減少。

- 関東・甲信越(81)：千葉大(110)は2年連続増加。東京医科歯科大(107)はやや増加。一方で、信州大(60)、新潟大(68)はいずれも募集人員減少の影響に加え、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 東海・北陸(113)：岐阜大(152)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。金沢大(129)、福井大(119)も大幅増加。一方で、地区内で唯一減少した富山大(74)は大幅減少
- 近畿(76)：大阪大(121)のみが大幅増加。第1段階選抜基準を緩和し、個別試験の配点を高くしたことが影響。他はいずれも減少し、特に和歌山県立医科大(44)は前年度大幅増加の反動で半減以下。第1段階選抜基準を厳しくした滋賀医科大(56)も大幅減少。
- 中国(104)：山口大(161)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、広島大(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。鳥取大(85)は2年連続大幅減少。
- 四国(117)：高知大(152)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。愛媛大(134)は2年連続大幅増加。一方で、地区内で唯一減少の徳島大(69)は大幅減少。
- 九州・沖縄(80)：全大学が減少。宮崎大(53)はセンター試験重視配点により平均点ダウンの影響を受けて、大幅減少。琉球大(69)は大幅減少で2年連続減少。長崎大(72)は2年連続大幅減少。九州大(76)は第1段階選抜基準を厳しくしたことで大幅減少。

<後期日程>



後期合計では1,677人(82)の大幅減少で前年度増加から再び減少しました。

地区別では、1大学のみ募集の地区では、奈良県立医科大のみ募集の近畿(121)は2年連続減少の反動で大幅増加、旭川医科大のみ募集の北海道(48)は前年度大幅増加の反動で半減以上でしたが、募集人員もほぼ半減で競争はわずかな緩和でした。鳥取大、広島大の後期廃止で山口大のみ募集の中国(27)は、前年度倍増した反動で大幅減少でした。

複数大学の募集がある地区で増減が目立ったのは、増加では四国(109)のみで、一方で減少では東北(46)、九州・沖縄(82)が大幅減少でした。

- 東北(46)：福島県立医科大の後期廃止で以下の2大学のみ募集。山形大(92)は減少。秋田大(81)は3年連続増加の反動で大幅減少。
- 関東・甲信越(89)：千葉大(104)のみやや増加。東京医科歯科大(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、山梨大(86)は減少で2017年度から反動による増減が継続。

2020年度入試状況分析【国公立大】

- 東海・北陸(102)：浜松医科大(173)、福井大(156)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。岐阜大(82)は募集人員減少で大幅減少し、2年連続減少。地域枠のみで募集の名古屋大(82)は2段階選抜を廃止したが、前年度の大幅増加の反動で大幅減少。
- 四国(109)：愛媛大(137)は大幅増加で2年連続増加。香川大(91)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 九州・沖縄(82)：佐賀大(105)はやや増加だが、他の3大学は減少。琉球大(70)は第1段階選抜基準を緩和したが、前年度大幅増加の反動で大幅減少。鹿児島大(72)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。

〔大学別志願状況〕

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2020年度		2019年度		志願倍率			コメント
				センター	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2020年度	2019年度	2018年度	
北海道	旭川医科大	前		550	350	-91	75	46	279	41	370	6.1	9.0	10.2	募集人員増加だが、2年連続大幅減少。 ※募集人員には特別選抜欠員分の6人(2020年度)、1人(2019年度)を含む。
		後		550	350	-314	48	8	287	15	601	35.9	40.1	27.2	<変更点>募集人員:15人⇒8人 前年度大幅増加の反動で大幅減少だが、募集人員も減少で志願倍率は35.9倍に留まったが、後期で最も志願者数が減少した。
	北海道大	前		300	525	+59	119	102	366	102	307	3.6	3.0	3.5	大幅増加で、前年度の反動による増減が継続。 ※募集人員はAO入試欠員分の5人を含む。
	札幌医科大	前		700	700	+18	106	20	58	20	302	2.9	4.0	4.9	<変更点>出願枠名称変更:北海道医療枠 ⇒先進研修連携枠 2年連続減少の反動でやや増加。
		先進研修連携枠					55	262	55		4.8				
東北	弘前大	前		1000	900	-286	55	50	352	50	405	5.0	8.1	7.9	<変更点>募集人員:(地域枠)15人⇒20人 <AO>47人⇒42人 2年連続増加の反動で大幅減少。前期で最も志願者数が減少した。
			地域枠					20		15	233		15.5	9.2	
	東北大	前		250	950	-102	71	77	252	105	354	3.3	3.4	3.6	<変更点>募集人員:105人⇒77人 <特別>地域枠新規実施:9人 大幅減少で3年連続減少だが、募集人員も減少で志願倍率は3.4倍⇒3.3倍のわずかなダウン。
	秋田大	前		550	400	+164	182	55	364	55	200	6.6	3.6	7.3	前年度半減の反動で大幅増加。前期で最も志願者数が増加した。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は76.1%だった。
		後		700	300	-81	81	20	338	25	419	16.9	16.8	14.1	<変更点>第1段階選抜基準:10倍⇒7倍 募集人員:25人⇒20人 <推薦>(地域枠)19人⇒24人 3年連続大幅増加の反動で大幅減少。
	山形大	前		900	700	-12	96	65	270	65	282	4.2	3.8	4.4	<変更点>出願枠名称変更:(地域枠)10人 ⇒(定着枠)一般に含む 第1段階選抜基準:4.5倍⇒約5倍 募集人員減少もあり、4年連続減少だが、志願倍率は3.8倍⇒4.2倍にアップ。
		定着枠							10						
		後		900	100	-17	92	15	192	15	209	12.8	13.9	11.0	前年度大幅増加の反動で減少。
福島県立医科大	前			650	660	-105	65	50	193	42	298	3.9	7.1	4.9	<変更点>第1段階選抜基準:約5倍⇒約4倍 募集人員:42人⇒50人 (地域枠)25人⇒30人 推薦A県内既卒枠新規実施:10人 前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集人員増加もあり、志願倍率は一般枠7.1倍⇒3.9倍、地域枠6.2倍⇒2.4倍にどちらもダウン。 ※地域枠の募集人員には推薦入試欠員分の2人(2020年度)を含む。
			地域枠			-79	49	32	77	25	156	2.4	6.2	3.6	
	後									23	519		22.6	14.3	<変更点>後期日程廃止
関東・甲信越	筑波大	前		900	1400	-62	66	49	119	60	181	2.4	3.0	4.7	<変更点>募集人員:58人⇒49人 (茨城県枠)4人⇒9人 <推薦>36人⇒44人 (茨城県枠)22人⇒17人 一般枠は募集人員減少もあり、4年連続減少。地域枠は募集人員減少の影響はなく、倍増以上の増加で2年連続大幅増加。
			茨城県枠			+29	204	9	57	4	28	3.0	2.0	1.2	
			全国枠					10		10					
	群馬大	前		450	450	-71	70	65	169	67	240	2.6	3.6	2.3	<変更点>第1段階選抜基準:約3倍 ⇒志願者数が一般枠で189人 地域枠で24人程度を超えた場合実施 募集人員:67人⇒65人 <推>(地域医療枠)10人⇒12人 前年度大幅増加の反動で大幅減少。
		地域医療枠			-6	85	6	33	6	39	5.5	6.5			

2020 年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2020年度		2019年度		志願倍率			コメント
				センター	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2020年度	2019年度	2018年度	
関東・甲信越	千葉大	前		450	1000	+34	110	82	278	97	329	3.4	3.4	3.2	<変更点>学費改定:535,800円⇒642,960円(年額) 募集人員:97人⇒82人 地域枠新規実施:15人 地域枠の新規実施もあり、2年連続増加。
			地域枠					15	85			5.7			
	東京大	前		450	1000	+13	104	15	280	20	360	18.7	18.0	18.4	<変更点>学費改定:535,800円⇒642,960円(年額) 募集人員:20人⇒15人 地域枠新規実施:5人 地域枠の新規実施もあり、2年連続減少の反動でやや増加。
			地域枠					5	93			18.6			
	東京医科歯科大	前		180	360	+22	107	81	344	82	322	4.2	3.9	4.2	<変更点>募集人員:82人⇒81人 3年連続減少の反動でやや増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は94.2%だった。
	横浜市立大	前		1000	1200	-97	71	58	240	58	337	3.2	4.2	3.4	<変更点>募集人員:(地域枠)17人⇒14人 (神奈川県枠)5人⇒2人 <推薦>8人⇒11人 神奈川県枠新規実施:<推薦>3人 募集人員減少、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
			地域枠					14		17					
診療科枠							2		5						
新潟大	前		750	1200	-164	68	80	344	85	508	4.3	6.0	4.6	<変更点>募集人員:85人⇒80人 <推薦>37人⇒42人 募集人員減少、4年連続増加の反動で大幅減少。	
山梨大	後		800	1200	-187	86	90	1107	90	1294	12.3	14.4	14.0	減少で、前年度の反動による増減が継続。	
信州大	前		450	600	-253	60	95	372	100	625	3.9	6.3	4.8	<変更点>募集人員:100人⇒95人 <推薦>20人⇒25人 募集人員減少もあり、前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。	
東海・北陸	富山大	前		900	800	-85	74	60	244	60	329	4.1	5.5	5.2	25%以上の大幅減少。
			後	1200	350	-25	92	20	301	20	326	15.1	16.3	16.6	
	金沢大	前		450	700	+71	129	84	312	84	241	3.7	2.9	4.2	<変更点>第1段階選抜基準:約3.5倍⇒約3倍 大幅増加で前年度の反動による大幅な増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.8%だった。
	福井大	前		900	700	+42	119	55	261	55	219	4.7	4.0	4.1	2年連続減少の反動で大幅増加。
			後	450	220	+141	156	25	393	25	252	15.7	10.1	18.6	
	岐阜大	前		800	1200	+140	152	37	410	32	270	11.1	8.4	12.1	<変更点>募集人員:32人⇒37人 <推薦>43人⇒48人 募集人員増加の影響と、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
			後	400	1200	-141	82	25	645	35	786	25.8	22.5	25.7	
	浜松医科大	前		450	700	+27	107	66	312	75	362	4.7	4.8	3.3	<変更点>募集人員:75人⇒66人 地域医療枠新規実施:9人 地域枠の新規実施もあり、やや増加で2年連続増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は77.4%だった。
			地域医療枠					9	77			8.6			
	名古屋大	前		900	1650	+45	118	90	295	90	250	3.3	2.8	3.2	<変更点>2段階選抜廃止 2段階選抜廃止の影響と、前年度減少の反動で大幅増加。
愛知県内			900	0	-12	82	5	55	5	67	11.0	13.4	10.6	前年度大幅増加の反動で大幅減少。	
三重大	前		600	700	+27	110	70	298	70	271	4.0	3.6	5.3	2年連続減少の反動で増加。	
		医療枠					5		5						
名古屋市立大	前		600	300	-17	88	10	121	10	138	12.1	13.8	15.9	2年連続減少。	
		後	500	700	+8	104	70	194	70	186	2.8	2.7	8.6		前年度激減の反動は小さくやや増加に留まった。

2020年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2020年度		2019年度		志願倍率			コメント
				センター	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2020年度	2019年度	2018年度	
近畿	滋賀医科大	前		600	600	-191	56	55	175	75	434	3.2	5.8	5.9	<変更点>第1段階選抜基準:約7倍⇒約4倍 募集人員:75人⇒55人 <推薦>25人⇒35人 地域医療枠新規実施:5人 募集人員減少もあり、半減に近い減少で5年連続減少。
			地域枠					5	68			13.6			
	京都大	前		250	1000	-20	93	105	278	103	298	2.6	2.9	3.2	前年度減少の反動はなく、やや減少で2年連続減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は96.8%だった。 ※募集人員に特色入試欠員分の3人(2020年度)、1人(2019年度)を含む。
	大阪大	前		500	1500	+49	121	95	279	95	230	2.9	2.4	2.4	<変更点>第1段階選抜基準: センター試験の成績が総配点900点中720点以上の者のうちから募集人員の約2.6倍までの者 ⇒センター試験の成績が総配点900点中630点以上の者のうちから募集人員の約3倍までの者 <個>数<200>+理2<200>+外<200> ⇒数<500>+理2<500>+外<500>+面 第1段階選抜基準緩和の影響から大幅増加。前年度の反動による増減が継続。
	神戸大	前		360	450	-29	90	92	250	92	279	2.7	3.0	3.2	3年連続減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は96.4%だった。
	京都府立医科大	前		450	600	-52	83	100	249	100	301	2.5	3.0	2.9	前年度5年ぶりに増加したが、再度減少に転じた。
	大阪市立大	前		650	800	-73	74	75	205	75	278	2.6	3.5	3.8	前年度大幅減少の反動はなく、2年連続大幅減少。
			指定枠					5		5					
奈良県立医科大	前		450	450	-42	80	22	163	22	205	7.4	9.3	9.1	大幅減少。前年度の反動による増減が継続。	
	後		300	900	+171	121	53	968	53	797	18.3	15.0	17.5	2年連続大幅減少の反動で大幅増加。	
和歌山県立医科大	前		600	700	-171	43	64	131	64	302	2.0	4.7	2.8	前年度大幅増加の反動で半減以下の大幅減少。2010年度以降初めて志願者数が200人を割り込んだ。	
		医療枠					-45	47	15	40	15	85	2.7		5.7
中国	鳥取大	前		900	700	-68	85	58	386	43	454	4.9	7.0	8.7	<変更点>募集人員:43人⇒58人 (山口県枠)募集停止 募集人員は増加だが、前年度の大幅減少の反動はなく、2年連続大幅減少。志願倍率は7.0倍→4.9倍。
			鳥取県枠					14		14					
			兵庫県枠					2		2					
			鳥根県枠					5		5					
			山口県枠							1					
	後								20	294		14.7	18.8	<変更点>後期日程廃止	
鳥根大	前		700	460	+91	127	55	427	55	336	7.8	6.1	5.8	<変更点>募集人員:(定着枠)7人⇒3人 <推薦>40人⇒44人 一般枠は大幅増加で志願倍率も6.1倍→7.8倍。定着枠は大幅減少だが、募集人員減少もあり志願倍率は5.1倍→8.7倍。	
岡山大	前		900	1200	+50	115	98	377	98	327	3.8	3.3	3.0	大幅増加で2年連続増加。	
		後							5	107		21.4	13.9	<変更点>募集人員:(国際バカロレア)若干名⇒5人 後期日程廃止	
広島大	前		900	1800	-107	82	90	484	90	591	5.4	6.6	6.6	前年度大幅増加の反動で大幅減少。	
		後													
山口大	前		900	600	+117	161	55	309	60	192	5.6	3.2	5.6	<変更点>募集人員:60人⇒55人 <推薦>22人⇒27人 2年連続減少の反動で大幅増加。	
		後		900	500	-167	56	7	214	10	381	21.4	38.1	18.6	<変更点>募集人員:10人⇒7人 地域枠新規実施:3人 前年度倍増の反動でほぼ半減の大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は70.1%だった。
徳島大	前		900	400	-67	69	64	151	64	218	2.4	3.4	2.8	前年度増加の反動で大幅減少で、志願者数が200人を下回った。	
		地域枠							9		9				
香川大	前		900	700	+17	106	50	287	50	270	4.9	4.6	4.2	やや増加で、2年連続増加。	
		後		1200	300	-43	91	25	433	25	476	17.3	19.0	16.4	前年度大幅増加の反動で減少。前年度の反動による増減が継続。
愛媛大	前		550	700	+78	134	40	306	40	228	7.7	5.7	4.3	2年連続大幅増加で、志願倍率も5.7倍→7.7倍。	
		後		900	300	+117	137	25	432	25	315	17.3	12.6	11.1	大幅増加で2年連続増加。志願倍率も12.6倍→17.3倍。
高知大	前		900	1000	+135	151	55	399	55	235	6.7	4.3	5.3	前年度大幅減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は62.7%だった。	
		地域枠					5		5	29		5.8	7.8		

2020年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2020年度		2019年度		志願倍率			コメント
				センター	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2020年度	2019年度	2018年度	
九州・沖縄	九州大	前		450	700	-85	76	110	271	111	356	2.5	3.2	2.9	<変更点>第1段階選抜基準:約4倍⇒約2.5倍 募集人員:111人⇒110人 <個>数+理2+外⇒数+理2+外+面 前年度増加の反動で大幅減少。志願者数は1989年度の分離分割方式導入後、初めて300人を下回った。
	佐賀大	前		630	400	-11	96	50	272	50	283	5.4	5.7	5.8	2年連続やや減少。第1段階選抜は、実施予告倍率の5倍を上回っていたが実施されなかった。
		後		630	280	+11	105	10	215	10	204	21.5	20.4	28.0	前年度大幅減少の反動で、やや増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は84.7%だった。
	長崎大	前		450	760	-111	72	76	284	76	395	3.7	5.2	6.8	2年連続大幅減少で、志願倍率も5.2倍⇒3.7倍。
	熊本大	前		400	800	-42	92	90	487	95	529	5.4	5.6	3.4	<変更点>募集人員:95人⇒90人 前年度大幅増加の反動で減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は76.8%だった。
	大分大	前		450	600	-1	100	65	285	65	286	4.4	4.4	5.3	前年度大幅減少の反動はなく前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は68.4%だった。
	宮崎大	前		900	600	-198	53	50	226	50	424	4.5	8.5	7.7	前年度増加の反動で半減近い大幅減少。志願者数は、2009年度以降初めて300人を下回った。
		後		900	300	-28	93	20	359	20	387	18.0	19.4	18.8	3年連続増加の反動は小さく、やや減少に留まった。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は69.1%だった。
	鹿児島大	前		900	920	-27	92	69	332	69	359	4.8	5.2	4.8	2年連続増加の反動で減少。
		後		900	320	-102	72	23	261	23	363	11.3	15.8	12.3	2年連続の大幅増加の反動で大幅減少。
	琉球大	前		900	800	-117	69	70	264	70	381	3.8	5.4	6.2	大幅減少で2年連続減少。
		後		1000	300	-135	70	25	321	25	456	12.8	18.2	15.2	<変更点>第1段階選抜基準:約5倍⇒約10倍 2年連続増加の反動で大幅減少。

〔志願者数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
熊本大	487 (90)	山梨大	1107 (90)
広島大	484 (90)	奈良県立医科大	968 (53)
島根大	453 (58)	岐阜大	645 (25)
東京大	413 (97)	香川大	433 (25)
岐阜大	410 (37)	愛媛大	432 (25)

〔志願者数が少なかった大学〕

前期日程		後期日程	
徳島大	151 (64)	名古屋大	55 (5)
奈良県立医科大	163 (22)	三重大	121 (10)
和歌山県立医科大	171 (79)	東京医科歯科大	168 (10)
筑波大	176 (68)	山形大	192 (15)
名古屋市立大	194 (70)	山口大	214 (10)

※()内は募集人員。一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数を掲載。

〔増加数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
秋田大	+164	奈良県立医科大	+171
岐阜大	+140	福井大	+141
高知大	+135	愛媛大	+117
山口大	+117	浜松医科大	+93
島根大	+81	千葉大	+13

〔減少数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
弘前大	-286	旭川医科大	-314
信州大	-253	山梨大	-187
和歌山県立医科大	-216	山口大	-167
宮崎大	-198	岐阜大	-141
滋賀医科大	-191	琉球大	-135

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数で増減を算出。

〔志願倍率が高かった大学〕

前期日程		後期日程	
岐阜大	11.1	旭川医科大	35.9
島根大	7.8	岐阜大	25.8
愛媛大	7.7	佐賀大	21.5
奈良県立医科大	7.4	山口大	21.4
高知大	6.7	千葉大	18.7

〔志願倍率が低かった大学〕

前期日程		後期日程	
和歌山県立医科大	2.2	名古屋大	11.0
徳島大	2.4	鹿児島大	11.3
九州大	2.5	三重大	12.1
京都府立医科大	2.5	山梨大	12.3
大阪市立大	2.6	山形大	12.8
筑波大	2.6	琉球大	12.8
京都大	2.6		

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の募集人員、志願者数で算出。